

令和5年度宇都宮市冒険活動運営協議会会議議事録

○日時 令和6年2月6日(火) 9:30～11:00

○会場 宇都宮市冒険活動センター 会議室

○出席者氏名

- ・石塚 諭委員 (宇都宮大学)【会長】
 - ・月橋 春美委員 (県キャンプ協会)
 - ・平野 勝委員 (篠井地区ゆたかなまちづくり協議会)
 - ・稲澤 正明委員 (市小学校長会)【副会長】
 - ・大野 英克委員 (県林業センター場長)
 - ・高橋 裕一委員 (市中学校長会)
 - ・坂内 剛至委員 (有限会社ネイチャープラネット)
 - ・森嶋 礼奈委員 (公募)
 - ・齊藤 竜也委員 (市PTA連合会)
- (事務局)

山崎 正士所長, 矢野 学副所長, 平山 絵夢指導主事, 佐藤 直樹指導主事

○欠席者氏名 ・櫻井 政義委員(市ボーイスカウト・ガールスカウト連絡協議会)

- ・金田 淳委員(市子ども会連合会)
- ・池田 幸枝委員(市レクリエーション協会)
- ・入江 里美委員(公募)

○公開 (傍聴者の数 0人)

1 副会長の選任について

2 報告事項 令和5年度事業報告について

ア 新型コロナウイルス感染症対策, イ 学校受入事業について

事務局 : (資料に沿って説明)

会長 : ご意見, ご質問はあるか。

会長 : アンケート結果から活動が充実していることが分かるが, マイナスの意見はあるのか。

事務局 : 学校受入事業のアンケートでは, 「冒険活動教室が2泊3日になり疲れた」「指導者研修会のリモートだけでは伝わらない部分があり厳しかった」という意見が挙げられている。

会長 : 教員向けの指導者研修会が今後重要になってくると思われる。

稲澤委員 : 事業報告から, 冒険活動センターは日々進化していると感じた。個人の見解だが, 保護者の志向により子どもたちの自然体験活動の体験の量が二極化していると考え。宇都宮市が取り組む冒険活動教室は, 親の志向によらず全ての子どもたちが自然体験活動に一度は取り組むことができ, 意味深いものである。「登山」という単語は知っているが経験している子どもは意外と少なく, 未経験の子どもたちは「登山は疲れる活動」というイメージをもっている。しかし, 実際に登山を体験すると「疲れた」だけではない感想がたくさん出ることから, 経験はとても重要だと感じた。また, 2泊3日になったことについては, 自然体験活動以外の生活面においても3日間親の力を借りずに生活する自立に向けた良い機会であると受け止めている。風呂の入り方や布団の畳み方等公共の施設の使い方を経験を通して学ぶことができる。1泊2日では親がいなくても我慢が出来てしまうが, 2泊に延ばすことで大きな学びが得られ, 本校の子どもたちにとっては大変有意義な冒険活動教室であった。

高橋委員 : 中学校では冒険活動教室は子どもたちで計画して運営する場面が多い。2泊3日の中で必ず行う野外炊飯は協力し, 時には我慢をしなければならない良い活動である。その中でも一番好きなのは片付けの場面であり, 冒険活動センターの職員が最後までしっかりと見届けてくれることにより, 生徒が一生懸命にみんなで協力し合う姿が毎回見られるため, 野外炊

飯は今後も継続して取り組ませたい活動である。野外炊飯のメニューについて、コロナ禍前は多岐にわたっていたが、現在どのようになっているか、また、今後どのようになるのか知りたい。

事務局 : 現在のメニューはカレーとコンソメスープを調理する「もぐもぐカレーセット」の一種類のみである。コロナの感染状況で野外炊飯が実施できない際にレストランの職員が調理できるメニューということから、カレーのみで展開していた。来年度は、以前にあった「ビビンバセット」を再開させ、2種類のメニューで実施していく。

稲澤委員 : 現在、事務局で考える学校受入事業についての課題はどのようなものがあるか。

事務局 : 課題として、引率教員の意識を高めることである。建設的な意見をもつ教員がいる一方、そうでない意見をもつ教員もいる。例に挙げると、中学校の登山は3山以上を推奨しているが、学年の中で教員の年齢差があった際に意識の差が生まれ、生徒にとって効果的な活動が疎かにされてしまうことがある。引率教員の「大変だと思ったが、実際に登ったらよかった」といったようなマイナスからプラスに変わった意見を学校へ伝えられる機会をもち、引率教員の意識を少しでも変えていけたらと考えている。

会長 : 教員の意識を変えていくことは難しい面があるのかもしれないが、ぜひお願いしたい。

ウ 一般受入事業について

事務局 : (資料に沿って説明)

会長 : ご意見、ご質問はあるか。

森嶋委員 : リーダーバンクとあるが、どのようなリーダーを募っているのか。

事務局 : NEAL リーダーの資格を有する人材を登録制で集めている。現在20名の登録者がいる。

坂内委員 : 施設の情報発信について、インスタグラムアカウントがあるが現在登録者数はどれくらいか。また、運用にあたっての課題はあるか。さらに、施設の安全管理面について長い年数が経っていることから老朽化による利用休止等のことはあったか。

事務局 : インスタグラムのフォロワー数は約690人である。課題はフォロワー数が伸びないことである。今後は、発信内容のマンネリ化解消、動画や音楽を取り入れる等表現の仕方を検討していかなければならない。また、一般利用についての情報発信をしたいと考えているが、承諾が得にくいという課題がある。利用促進を図るためには、投稿を見た人が「こんな風に使えるのか」と想像しやすい内容が良いと考え、一般利用客に積極的に声をかけ利用の様子を発信していきたい。安全管理については、職員による月に一度の安全点検や業者による定期点検を行っている。また、現在大規模修繕の計画を立てているところである。活動や作業を行う際は、危機管理マニュアルを確認し取り組んでいる。

坂内委員 : インスタグラムを見ている立場から得たい情報は、ビジターセンターとしての機能である。その時期の園内の自然の様子や山の様子、眺望等自然情報をより多く発信していくことで一般利用促進に繋がるのではないかと考える。

エ 主催事業、オ 指導者養成事業、カ その他について

事務局 : (資料に沿って説明)

会長 : ご意見、ご質問はあるか。

会長 : 子どもと親の経験はリンクするという事について、月橋委員から何かご意見はあるか。

月橋委員 : 「のぼろう！みどりのはるな山！」の参加者アンケートの中に「子どもが頑張っている姿を見られてよかった」とあったが、子どもは小さければ小さいほど親次第であると思う部分がある。保護者の関わり方次第で子どもは幾分にも変容すると思っている。今後、親子での活動を少しずつ増やしていくことで、子どもたちの自然体験の場は増えていくのではないかと考える。幼児期にベースとしての自然体験があり、小中学校でも冒険活動教室で自然体験をするという流れをつくるのが大切であると考えている。

会長 : 親の経験と子どもの体力的な数値がリンクするということから、新規事業「のぼろう！みどりのはるな山！」は好評であったことがわかる。

森嶋委員 : 「子どものもりフェスティバル」では、自衛隊が来ることにに対してクレームはあったか。

事務局 : ない。自衛隊の「組み紐作り」の活動は人気であった。自衛隊の職員の数が例年より少なかったことから、待ち時間が長くなってしまったという課題はあった。

3 協議事項 令和6年度事業計画(案)

ア 学校受入事業について

事務局 : (資料に沿って説明)

会長 : ご意見、ご質問はあるか。

高橋委員 : 林業センターに「林業大学校」ができるが、今までの冒険活動教室との連携では薪割教室や食事等が行われていたのか。

大野委員 : 食事は場所がないためできないが、今年度は木工教室や今時の機械に触る、木材を切るという体験を展開している。

高橋委員 : チェンソーなども使えるのか。

大野委員 : チェンソーを使わせることはできないが、自力で切る・組み立てることはできる。体験を通して、社会性や経済について伝える等の協力をしていく。

高橋委員 : 林業関係に就職する若者が増えるとよいと考える。

大野委員 : 小・中学生の時期に林業で働くことを意識したという話も耳にしたことがあることから、その時期の経験は大切だと考える。林業センターの職員の負担も考慮しながら、今後も冒険活動センターに寄り添い携わっていききたい。

会長 : 林業というイメージをもっと広める上でも連携を深めてほしい。

イ 一般受入事業について

事務局 : (資料に沿って説明)

会長 : ご意見、ご質問はあるか。

坂内委員 : 一般利用について、コロナが5類に移行してから、日光市は外国人利用者が増えてきている。冒険活動センターでは外国人利用者はいたか。

事務局 : いない。コロナ禍前に中国の方の利用はあったが、外国人利用者はほとんどいない。

会長 : ネイチャープラネットでは外国人利用者が増えているのか。

坂内委員 : 増えてきている。欧米人が多く、アジアでも英語圏の利用者が増えている。

月橋委員 : 一般利用で、幼稚園・保育園等の保護者主催で親子の集い等年間でどのく

らい利用はあるか。
事務局 : 保育園、幼稚園の利用は年間で 1, 2 件であるが、保護者主催ではなくお泊り保育のようなものである。

ウ 主催事業について

事務局 : (資料に沿って説明)
会長 : ご意見、ご質問はあるか。
平野委員 : 低学年の子どもの体験活動は、親志向という意味で新規の「のぼろう！みどりのはるな山！」は良い事業になったと考える。

エ 自然体験活動に関わる人材育成事業について

事務局 : (資料に沿って説明)
会長 : ご意見、ご質問はあるか。
森嶋委員 : リーダーバンク事業について、指導者の資格はどのようにしたらとれるのか。
事務局 : 冒険活動センターの NEAL リーダー研修会に参加すると資格を取ることができる。
森嶋委員 : 資格取得者は学生が多いのか。また、どの世代が多いのか。
事務局 : 今年度については、学生は 3 年生が多く数名取得した。職員でいうと 20 代, 50 代, 60 代が多い。
稲澤委員 : 人材育成について、冒険活動アクティビティ研修は小中学校教諭の希望者ということだが、今年度は何人参加したか。
事務局 : 中学校教諭 2 人, 小学校教諭 19 人の参加であった。本研修は冒険活動教室の概念から離れ、当センターで取り組んでいるアクティビティを体験してもらい自然体験活動のよさや意義を参加者に伝えるものである。自然体験活動に興味がある教諭が参加するということで、実技研修と比較すると少人数になる傾向がある。
会長 : 実技研修会は引率者対象のもので 40 人だったということか。
事務局 : そうである。
会長 : 実技研修会の参加者も更に増えるとよいと考える。

オ 広報・理解促進事業について

事務局 : (資料に沿って説明)
会長 : ご意見、ご質問はあるか。
坂内委員 : 人材の確保について、どのようなところに求人を出しているのか。
事務局 : 広報うつのみや、ホームページ、インスタグラム、ハローワーク等に出している。また、県内外の大学に案内を出している。
高橋委員 : 他機関との連携について、教育センターとの連携で「U@りんくす」とあるが、これに関わる子どもたちが冒険活動センターに来て活動するということなのか。
事務局 : 活動するということではない。不登校傾向の子どもたちに向けて、冒険活動センターの四季の移り変わりや施設の様子等撮影したものを提供し、子どもたちが自然に興味をもつことをねらいとして協力させていただいている。
月橋委員 : 保育園、幼稚園にイベントや施設利用のチラシを配布しているか。
事務局 : していない。配布可能である。
月橋委員 : 保護者の中には、子どもが小学 5 年生で冒険活動教室に来るまで冒険活動センターを知らない方も意外というのではないか。チラシは配られると読

むものである。保育園、幼稚園の保護者が知ること、今後、保護者が企画して集いを行うことや週末に出かけてみる等で利用が広がるとよい。

会長 : 可能な範囲で周知していただきたい。

会長 : PTA の立場から齋藤委員何かあるか。

齋藤委員 : 子どもに対する親の影響は大きいものである。子どもが小さいうちは子ども中心で生活するが、成長するにつれて親の手を離れ一緒にでかけることもなくなるため、自然体験活動は幼稚園生くらいから経験するとよいのではないか。そのため、幼稚園・保育園児をもつ保護者に情報を広げていくことが重要だと考える。

4 その他 今後の冒険活動センターの運営について

事務局 : (資料に沿って説明)

会長 : ご意見、ご質問はあるか。

稲澤副会長 : 食材の物価高騰について、学校給食でも物価高騰により保護者の負担が大きくなっている。給食費は市から補助を受けているが、冒険活動センターにおいても受益者負担が抑えられるような対応策があれば教えていただきたい。

事務局 : メニューを見直し、ロスが少ない材料でできるものを提供している。また、市としてレストランの施設使用料の減免を検討するという方向性で対応策を探っているところである。

会長 : 業者の努力だけに頼ることは限界があるため、今後も対応策を検討していただきたい。

会長 : 冒険活動センター事業の保育園・幼稚園への周知やInstagramの活用法等、今回意見が挙げられた意見を組み込んでいただき、充実した運営をしていただきたいと考える。